8 報告会　要旨

San-En-Nanshin Summit 2010 in Minamishinsyu

報告会では、各分科会のコーディネーターがそれぞれ議論された内容を報告し、飯田市長がサミット宣言を行った。また、浜松市長が、次回開催地域を代表してあいさつをした。

■「道」分科会
コーディネーター　飯田市長　牧野光朗

「道」分科会では、まず３人の方々から、ご報告をいただきました。

まず、中部地方整備局浜松河川国道事務所の森谷所長様から、「平成22年７月豪雨が住民の生活に与えた影響と三遠南信自動道の整備と効果について」のご報告をいただき、続いて、飯田市企画部の木下参事から、「リニア中央新幹線・飯田駅を見据えた地域づくり」という視点で、国や南信州地域の取り組み状況、また、このリニアが三遠南信地域に与える影響について報告がありました。

それから、３番目に豊橋市の野﨑副市長様から、「三遠南信地域の物流拠点港湾」というテーマで、この地域だけでなく、国にとってのゲートウェイとしての重要性から、港湾とセットで三遠南信自動車道あるいは広域幹線道路の充実をさせることが重要との報告をいただきました。

これらの報告を踏まえ、テーマ「地域基盤整備による地域活性化への期待」に基づき議論を活発にさせていただきました。

さまざまな皆様からいただいたご意見としては、リニア中央新幹線や港湾整備といった、こうした地域にとって不可欠なインフラ整備は早期に行っていく必要があるわけでありますが、特に、こうしたものを三遠南信圏域全体で最大限の効果を出していくためには、やはり今、脆弱と思われます南北軸の道路整備、これを早期かつ着実に進めていくことが必要というものでした。

また、そうした道路整備を進めていくために、特に、この三遠南信自動車道あるいは浜松三ヶ日・豊橋道路、三遠伊勢連絡道路等の早期整備を図っていくためには、国への働きかけをどうするかということが大変重要であるということでご意見をいただきました。

これは前回の報告でもあったところでありますが、国会議員や国への働きかけというのをこれからもしっかりと考えてやっていく必要があるということであります。

特に、この三遠南信自動車道につきましては、青崩峠道路、あるいは浜松市側の現道活用区間、こうしたところをどのような形でこれから進めていくかということに課題を持っているということでありまして、やはり地域にとりまして、この道路をどのようにこれから活用していくか、地域の中でしっかりとまた議論を進め、そして、地域全体でこの活用について、国を始めとした関係機関への提言を継続して行っていくということが必要であります。

また、交流をより進めることによりまして、お互いの地域を知っていくことで、こうした情報共有もさらに高めることができるのではないかということでありました。

以上をもちまして「道」分科会の報告とさせ

ていただきます。

■「技」分科会
コーディネーター　静岡大学イノベーション共同研究センター長　木村雅和　様

「技」分科会の前半部分、１番目のテーマ「産学官連携・農商工連携の推進と地域全体への拡大に向けて」に基づく議論について報告させていただきます。

まず、この分科会の前半の部分では、三遠南信地域における産業集積計画に関する事例報告に関しまして、飯田市の粂原産業経済部長様にご報告をいただきました。

その後、報告及び全体会のトップ対談の結果に基づき、活発な議論がなされました。

その中では、この地域には新産業から既存産業、あるいは一次産業から六次産業まで、多様な産業が集積しているのが三遠南信の地域である。また、この地域には非常に多くの資源の宝庫がある。

こういったものを生かして、国際優位性のある技を駆使して、地域活性化に必要な資金を世界からいろいろな形で稼いでくる、そういった地域イノベーションを確立していくことが必要であるといったご意見が出されました。

そのためには産業界、大学、自治体が一体となって戦略的に進めていくこと。また、都市部あるいは中山間地域が多いこの地域の地域産業の振興も両立させながら、広域化、国際化を進めていくことが、この地域の未来を決めると言っても過言ではないといった議論がされ、重要なのは「自立」と「グローバル化」であることを確認しました。

そして、そもそもこの地域には地域ならではの強みがあり、それがこれからどのように活用されるのかが問題であって、今後、地域がもともと持っている本来の強みを生かしていくための産学官による連携で、他の地域にないようなビジネスモデルを確立することこそ、三遠南信のこれからの課題ではないのかということが議論されました。

その中で出てきた幾つかのキーワードには、「ネットワーク化」、「ブランド化」、「人材育成」、これはグローバルという言葉に限らないですけれども「マーケティング」があり、これが非常に重要だろうということも議論されました。

まとめとして、先ほどトップ対談の中でありましたけれども、これからこの三遠南信、ＳＥＮＡが次の形に向けて一歩前へ出るときに、これらを達成するような組織になっていくことが重要ではないかというように結論づけられました。

以上、「技」分科会、前半部分の報告とさせていただきます。

■「技」分科会
コーディネーター　愛知大学経済学部教授　岩崎正弥　様

「技」分科会の後半部分、２番目のテーマ「地域が大学に求めるものと三遠南信地域大学フォーラムの姿」に基づく議論について報告いたします。

実は、前半部分のテーマでかなり議論が白熱しまして、残り10分ほどの時間の中、当初予定していたことができなかったというのが現状でございました。

「技」の中では、「三遠南信地域大学フォーラムの設置」が重点プロジェクトの一つとして掲げられています。

これに関しまして、メンバーの一人であります佐藤元彦愛知大学学長より現状を報告いただき、それに関して意見をいただく予定でしたが、初めに申し上げましたように、紹介が中心で終わってしまったという状況でございます。

ただ、その中で２点ほど、地域が大学に求めるものということで意見が出されました。

１点目として、この間、いろいろな大学が地域連携に取り組まれておりますが、その中には、その目的などからやむを得ず行き違いが出ています。

原因の一つとして、地域の側から見たときに、大学の地域への踏み込み方が、まだまだ甘いのではないかといったご意見でした。

それから、２点目として、産学官連携ということで、とりわけ理系の大学では、この間、連携を進めてまいりましたが、人文・社会系の大学においても関わりを強くしてほしいというご意見で、三遠南信地域には人文・社会系の大学が多々あるものの、愛知大学もその一つですが、産学官連携における関わりが薄かった現状を踏まえ、前半部分で議論された「マーケティング」の部分でもぜひ連携し、人材育成に関わってほしいというものでした。

このような意見や要望が出されたということで、報告に代えさせていただきます。

■「風土」分科会

コーディネーター　財団法人阿智開発公社理事長　羽場睦美　様

「風土」分科会では、テーマ「三遠南信の地域資源を活かした連携事業の推進と歴史風土の保全」に基づくとともに、トップ会談における佐原豊橋市長さんの地域文化、お祭り、人の交流を支える「絆の道」のお話、牧野飯田市長さんの南アルプスの辺境の地に、それこそ三遠南信のお仲間がたくさん集まって、私たちの地域固有の文化を体感されたお話が紹介されたことに触れるとともに、昨年度の「風土」分科会でまとめられた事項を確認しながら、議論を交わしました。

まずは、秋葉街道信遠ネットワークの木下利春様からご報告をしていただきました。

まさに伊那市からずっと遠州までつながっている民間のネットワークで、田原市長さんも途中で取り組まれたそうでございますが、沿線の関係者を中心に秋葉街道を修復し、保全と活用していく内容でしたが、一方で、三遠南信自動車道では日本の最高の技術を集め、巨額を投じて道がつくられるなか、歴史と文化を残す道、そこに価値があり、あるいは大事なものがあるというご報告でした。

これを受け、出席者の皆様からご意見等をいただきました。

浜松市では、地域内の５つのお寺を「湖北五山」と名付けて、共通する観光資源全体でＰＲする新たな手法に取り組んでいる事例を挙げ、三遠南信でもそういった工夫ができるのではないかというご意見をいただきました。

また、田原市と設楽町では、田原市の若者が設楽町の標高の高い遊休農地を開拓して、地元の農家の指導の下で高原キャベツをつくり、田原の販売ルートやマーケティング技術を活用して販売し、雇用も生み出せる新たな試みがなされている事例の報告がございました。

さらに根羽村では、地域資源の根羽杉の生産から加工、そして販売を住宅の設計士や工務店と連携して行う新たな産業を創出して雇用を生み出し、Ｉターンの若者が多く定住している事例。特に、村に定住する人には、ただ定住する

だけではなく、地域のお祭り、組合や消防団に参加することを条件としていて、一緒に地域の文化を守っている事例のご報告もありました。

全体として、その多様性から一つにまとめるという段階にはまだ至っていないことをみなさんに了解をいただき、塩の道エコミュージアムとして、着地型のニューツーリズムの地元発信の文化など、多々ある地域資源を大切にしながら、これから徐々にそれを育てていこうということでみなさんの合意がとれたのではないかと思います。

それから、もう一つは、三遠南信における地域社会雇用創造事業で、内閣府から７億円の交付金を受けて事業に取り組んでいるというご報告がＳＥＮＡからありました。

事業は平成22年度からスタートしており、23年度までインキュベーション事業で起業者を90人、インターンシップ事業で研修修了生を800人の数値目標を掲げています。

これには大いに関心を持っていただきまして、ＮＰＯ法人、あるいは自治体関係者等も積極的にご参加いただきたい。

まだまだいっぱいある宝が観光に結びついて、これが産業にまでは至っておりませんけれども、大きな可能性を秘めているということで会を閉じさせていただきました。

以上、報告とさせていただきます。

■「山・住」合同分科会
コーディネーター　豊橋技術科学大学建築工学系教授・地域協働まちづくりリサーチセンター長　大貝彰　様

それでは、「山・住」分科会の報告をさせていただきます。

今回は、「流域定住の推進に向けた連携体制の構築」と「安全・安心の地域づくりの実現」の二つのテーマについて話し合いをしました。

事例報告では、まず、浜松市消防ヘリコプターの広域運用について、浜松市消防航空隊の前川さんから報告いただきました。

そして、定住に絡んで、長野県松川町の「空き家情報バンク」による定住促進について、さらに、東三河広域協議会が取り組む「シニアリフレッシュ事業」による中山間地域への移住・定住の促進についての報告をいただきました。

続いて、出席者の皆様からご意見をいただき、たいへん中身の濃い議論ができましたので、ご報告します。

まず「安心・安全な地域づくり」についてですが、安心・安全ということは、特に中山間地域での生活を維持し、さらには移住・定住を促進していくためには欠かせない生活の基盤であります。それをどう構築していくか、確保していくかというのは極めて重要なテーマです。

これは、医療、教育、さらには防災といった面で不可欠な要素で、やはり県境を越えて連携体制を構築していくことが極めて重要であるということを確認しました。

それから「定住・移住」というテーマですが、これについては、本当に各市町村で様々な努力、取り組みがなされています。

松川町の「空き家情報バンク」の話がありましたけれども、この空き家情報をうまくデータベース化して空き家の所有者に登録してもらい、利用者のアクセス数を増やしていかないと、なかなか定住に繋がらない状況です。

中山間地域を抱えている市町村では、共通す

る課題を持っていることから、やはり情報をいかに一元化して、それをうまく発信していくことが重要で、個々の市町村の取り組みから、今後は三遠南信全体で連携し、三遠南信というスケールメリットを生かして、情報発信力を強めたいところです。

また、定住を促進させたいが山に働く場所がないという重要な問題に関して意見をいただきましたが、やはり三遠南信の最大の地域資源である森林を生かすしかないという意見が多く、雇用の場を確保するためには、林業の再生というのが今後の重要な政策課題と確認しました。

なお、アドバイザーの戸田さんからは、流域定住を進めていくためには情報発信力を高めていくことが必要で、インターネットだけでなく、チラシやパンフレットでも情報が地域の至るところで、いつでも得られるような環境がつくられることが望ましいのではないか。

それには、この地域の公共施設などを三遠南信交流センターとしてＳＥＮＡが認定して、そこを三遠南信地域の情報源としても活用し、情報を発信していこうという提案をいただいた。

以上、報告といたします。

■サミット宣言　　飯田市長　牧野光朗

第 18 回三遠南信サミット in 南信州では、「地域主権時代における県境地域連携モデルの推進－融合に向けた自発的な地域づくりの実践－」をテーマとし、トップ対談において地域の目指すべき姿を語り、「道」「技」「風土」「山・住」の各分科会において、自発的な地域づくりについて議論を深めてまいりました。

私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議（ＳＥＮＡ）は、今回のサミットでの議論を踏まえ、次の事項に重点を置き、地域主権時代における県境地域連携を自負と責任を持って先導してまいります。

1　圏域の背骨となる三遠南信自動車道の早期開通をはじめ、リニア中央新幹線の早期開業と圏域北部の玄関口となるリニア中央新幹線飯田駅の設置を目指すとともに、東西南北高速移動時代に備えた浜松三ヶ日・豊橋道路等の整備、三遠伊勢連絡道路の実現に向け、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（ＳＥＮＡ）を中心とした強固な連携の下、地域一丸となって提言活動を進めます。

2　新産業の集積と基幹産業化、既存産業の再成長に向け、産学官金連携を一層強固にし、次世代輸送用機器、農商工連携、医工連携、光エネルギー環境分野の取り組みを加速させるとともに、海外市場も見据えながら広域的な展開を図ります。

　また、三遠南信地域の大学・研究機関等の連携を促進する三遠南信地域大学フォーラムの設置に向けた取り組みを進めます。

3　三遠南信地域の塩の道エコミュージアムを構成する歴史的・文化的な地域資源の情報の一元化と発信体制の強化を図ります。

　また、三遠南信地域社会雇用創造事業を通して社会的企業を支える人材の育成や社会的企業の起業支援に取り組み、三遠南信 250 万流域都市圏を支える雇用創造ネットワークの構築を目指します。

4　安全・安心な地域づくりの実現に向け、地域住民の生命、身体、財産等を災害から守るために県境を越えた広域防災連携を推進します。

　また、中山間地域における定住促進や流域定住推進モデルの形成に向け、情報の一元化と圏域内外への発信体制の整備に取り組みます。

5　三遠南信地域の融合に向けて、広域連合など平成 24 年度からの新・連携組織への移行について準備を進めます。

これらの取り組みを、ここに集うすべての主体が確認し、第 18 回三遠南信サミット 2010 in 南信州のサミット宣言といたします。

平成 22 年 11 月 12 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
三遠南信サミット 2010 in 南信州

○次回開催地域あいさつ

浜松市長　鈴木康友

それでは、皆様、大変お疲れさまでございました。

来年開催予定地であります遠州地域としてごあいさつをさせていただきます。

今回、第18回の三遠南信サミット2010in 南信州の開催にあたり、この飯田を中心とした南信州地域の皆様に本当に大変お世話になりました。また、ぐっと踏み込んださまざまな議論が行われたというように思います。

先ほど宣言文にもありましたように、24年度に向けまして、新たな連携に向けた組織を考えていこうということで、広域連合を視野に入れた準備を進めるという、今までにない新しいステップに入ったかなという感じがいたします。来年の19回目は、いよいよ７巡目に入るということでございまして、新しいステップに入ったこの三遠南信地域連携ビジョンの実効性ある取り組み、あるいは議論がなされるように、私たちも頑張ってまいりたいというように思います。

来年、浜松は市制百周年を迎えます。百年の一つの区切りの年というようになりますので、百周年記念の三遠南信サミットでもございます。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。